

様式3 全教科の指導方法課題分析と具体的な授業改善策
 教科名 (国語)

	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	補充的・発展的な学習指導計画
第一学年	<p>○話す・聞く：正確に聞き取り自分の考えを分かりやすくまとめ、主体的に表現する力の育成が必要である。</p> <p>○書く：伝えたい事実や事柄について、自分の考えや気持ちを、根拠を明確にして書くことができていない。</p> <p>○読む：文章の構成や展開、表現の特徴について、自分の考えをなかなかもつことができない。</p> <p>○言語：小学校で学習する漢字や語彙の定着を図ることが必要である。</p>	<p>○話す・聞く：生徒が関心・意欲をもつ題材で単元を設定し、その力を育む。 また、普段から自分の考えを発表する場面を設定する。</p> <p>○書く：文章の中の自分の考えや気持ちについての根拠が書かれているかどうかを毎回振り返らせる。接続語、段落構成の工夫にも着目させる。</p> <p>○読む：文章をよく読んで、その工夫や効果について自分の考えをまとめ、交流するようにする。</p> <p>○言語：漢字の成り立ち、部首字体、筆順の単元や辞書学習で漢字語彙の関心・意欲を引き出す。</p>	<p>○課題未提出、目標未達成の生徒の個別指導を行う。</p> <p>○漢字ノートを活用させ、継続的に漢字学習に取り組みさせ、定期的にテストを実施していく。</p> <p>○「読書の授業」を通して、ものの見方や考え方を広げ各領域の力を高める。</p> <p>○「読書の小径」で読書記録を書かせ関心・意欲を高めていく。</p>
第二学年	<p>○話す・聞く：プレゼンテーションなどの準備活動が授業時間内で終わらないことが多い。</p> <p>○書く：文章の構成や描写を工夫して書く力、意欲をもたせる指導を必要とする。</p> <p>○読む：筆者の論理展開の仕方、描写の工夫に対し自分の考えをまとめる活動が不十分である。</p> <p>○言語：用言の活用、助詞助動詞等の演習が必要である。</p>	<p>○話す・聞く：毎時の言語活動の流れを見直し、より効率的な指導をする。</p> <p>○書く：ワークシートを活用し生徒全員が根拠や具体例を整理して文章を書く言語活動をする。</p> <p>○読む：クリティカルリーディングや描写に着目した詩の授業を実施する。</p> <p>○言語：練習プリントを作成し、文法事項の演習を多く行う。</p>	<p>○課題未提出、目標未達成の生徒の個別指導を行う。</p> <p>○漢字ノートを活用させ、継続的に漢字学習に取り組みさせ、定期的にテストを実施していく。</p> <p>○様々な作品に触れるワークブック、読書と「私の一行」、手紙文などの課題を夏休みに与え補充的な指導を行う。</p> <p>○文法事項の復習プリントで補充的な指導を行う。</p> <p>○自習ノートを提出させ、復習、苦手分野の反復学習、発展問題への挑戦を促す。</p>
第三学年	<p>○話す・聞く：授業で身に付けた技能を日々の生活で活かす意欲を抱かせていない。</p> <p>○書く：根拠や具体例を集め、論理の展開や描写を工夫をした文章を書く力を養う必要がある。</p> <p>○読む：同種・異種の社会の実際の文章を読み比べ考えをまとめる言語活動が不十分である。</p> <p>○言語：関心・意欲を引き出す古文、言語の指導ができていない。</p>	<p>○話す・聞く：生活で活用できることを実感させ意欲を持たせる。</p> <p>○書く：根拠や具体例を集め、文章の組み立てを考えて主張文・批評文等言語活動を行う。</p> <p>○読む：同種・異種の文章を読み比べ、自分の考えをまとめ、伝える言語活動を行う。</p> <p>○言語：漢文の押韻を流行歌と比べる。奥のほそ道にならった紀行文作成等の単元を実施する。</p>	<p>○課題未提出、目標未達成の生徒の個別指導を行う。</p> <p>○各生徒のレベルが漢字検定3級に到達するように漢字学習に取り組みさせる。</p> <p>○文学作品、説明文、随筆、詩、短歌などに触れるワークブックを課題として与え、補充的な指導を行う。</p> <p>○入試の過去問題に取り組み、受験への意識を高める。</p> <p>○自習ノートを提出させ、復習、苦手分野の反復学習、発展問題への挑戦を促す。</p>

様式3

全教科の指導方法課題分析と具体的な授業改善策

教科名 (社会)

	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	補充的・発展的な学習指導計画
第一学年	<p>○問題に対して自分の意見を論理的な根拠に基づいてまとめ、発表する力が弱い。</p> <p>○積極的に発表をする生徒とそうでない生徒の差があるので後者を主体的に学ばせていく必要がある。</p> <p>○学力の差が少しずつあらわれてきたので、早い段階で基礎・基本の定着を図っていく必要がある。</p>	<p>○授業の中で考える場面を多くする。またグループ学習の際は、少人数でのグループを編成し、自分が発言する機会を多くする。</p> <p>○積極的に発言できない生徒に対しては、単純な発問を行い、自信を付けさせるよう促していく。</p> <p>○授業冒頭で、前回の復習、まとめの段階で振り返りを行い知識の定着化を図る。</p>	<p>○生徒が興味・関心を持てるよう、難しい内容をできるだけ身近な事象に関連付けて授業を展開していく。</p> <p>○理解が十分でない生徒に関しては、社会科を暗記しなくてはいけない教科と認識している生徒が多いので、その事象に対しての原因と結果等の流れを意識させるようにする。</p>
第二学年	<p>○全体的に授業に対して、主体的に取り組んでいこうとする姿勢が乏しい。</p> <p>○自分の意見を発表する際に、考えをまとめ根拠に基づいて発言をする力を伸ばし行く必要がある。</p> <p>○基本的な知識・理解に関して、出来る生徒とそうでない生徒の学力差がみられる。</p>	<p>○一方的でなく、生徒が主体的に学習に参加できるような環境作りを構築していく。</p> <p>○グループ学習をする際は、まずは自分で考え、その後にそれぞれ意見交換・共有を行い、発表するという形式をとっていく。</p> <p>○定期的にまとめプリント配布し、繰り返し学習の大切さを実感させるようにする。</p>	<p>○ICT機器を活用し、生徒が自ら授業に参加する姿勢を養う。また視覚的に情報を提示し理解を促していく。</p> <p>○理解が十分でない生徒に関しては、空き時間を利用し個別に質問を受け付け、指導するなど繰り返し学習を図る。</p>
第三学年	<p>○図やグラフなどの資料を読み取る力やできごとの原因などを考えて分析する力の育成が必要である。</p> <p>○理解している生徒と理解していない生徒の差が大きい。</p>	<p>○振り返りシートなどのプリントを活用して、基礎的事項の理解や、資料を活用する力の育成を図る。</p> <p>○語句カードなどの教材の工夫により、重要事項を覚えやすいようにする。</p> <p>○身近な例や最近のニュースなどに関連させて、理解しやすい説明を心掛ける。</p>	<p>○副教材や復習プリントを活用して、放課後や休み時間等を利用して、個別にきめ細かく指導する。</p> <p>○K中ゼミを行い、発展的な内容を指導する。</p> <p>○実際の入試問題を解かせる。</p>

様式3

全教科の指導方法課題分析と具体的な授業改善策

教科名 (数学)

	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	補充的・発展的な学習指導計画
第一学年	<p>○全体の意欲面から、標準コースの人数を例年より多めにしたが、学習内容の定着と理解力は、夏休み後の復習テストの結果を見る限り、順調であった。</p> <p>○基礎コースでは、学習に対する基本姿勢や、小学校時の学習内容の復習や、小テストの実施頻度をあげての技能の定着を図った。</p> <p>○復習テストの結果では、自主的な学習の遂行に課題が残った。</p>	<p>○標準コースでは、発展問題や課題を随時用意する形を、今後も取っていく。</p> <p>○基礎コースも、基本的には、一学期の進め方を続け、特別支援ともつなげながら、個々の学習課題に切り込んでいく。</p>	<p>○副教材等を利用して実施していく。なお、A問題・A+問題・B問題を利用し、個々の理解度に合わせて進めていく。</p> <p>○標準コースでは、例題も「問題」として解かせ、例題の解答を解答例として活用し、問題練習をできるだけ多く取り入れる。</p>
第二学年	<p>○発展コースは、学習内容の定着と理解力も、順調に進んでいる。</p> <p>○標準コースでは、基礎学力の差異から、小数・分数計算から、やり直す必要のある生徒もおり、全体的な定着に若干の難が生じている。授業中における、特に習熟の遅い生徒に対する個別の対応は、どうしても時間的に限界があり、十分といえない状況である。</p>	<p>○発展コースでは、発展問題や課題を随時提供し、さらに伸ばす。</p> <p>○標準コースでは、その中でも学習意欲と理解力の高いものを、発展コースに上げ、少数化を進める。そのためにも、技能定着の確認をこまめに実施していく。(小テストや毎時間の宿題の確認等)</p> <p>○実物投影機を活用して授業の効率化を図る。</p>	<p>○副教材等の課題学習で、A(基本～標準)問題・B(標準～発展)問題を利用しながら個々の理解度に合わせて進めていく。また、発展コースでは、例題も「問題」として解かせたり、補充プリントを活用したり、問題練習をできるだけ多く取り入れる。</p> <p>○K中ベーシック等を活用し、理解の不十分な内容を補完する。できる限り個別にも対応する。</p>
第三学年	<p>○発展コースでは、学習内容の理解、定着とも、順調に進んでいる。</p> <p>○標準コースでは、理解の差が比較的広いため、習熟度に見合った指導法が固定できず、「基本から、コツコツと…」の繰り返しになっている。特に習熟の遅い生徒に対する個別の対応は、どうしても時間的に限界があり、十分といえない状況である。</p>	<p>○発展コースでは、発展問題や課題を随時提供し、さらに伸ばす。標準コースでは、その中でも学習意欲と理解力の高いものを、発展コースに上げ、標準コースの少数化を進め、併せて、基礎の基礎を定着させる、二重構造を模索していく。そのためにも、こまめに技能の確認を実施していく。(計画的な小テストや毎時間の宿題の確認等)</p> <p>○1、2年の内容もフィードバックしながら授業を進め、個々のレベルアップを図ったり、生徒同士が問題解法を確認し合ったりして、相互に助け補完するような時間を設けるようにする。</p> <p>○実物投影機を利用して効率化を図る。</p>	<p>○副教材等の課題学習で、A(基本～標準)問題・B(標準～発展)問題を利用しながら個々の理解度に合わせて進めていく。また、発展コースでは、例題も「問題」として解かせ、例題の解答を解答例として活用したり、補充プリントを用いたりするなど、問題練習をできるだけ多く取り入れる。</p> <p>○K中ベーシック等を活用し、理解の不十分な内容を補完する。特に理解や定着が遅い生徒には、できる限り個別に対応していく。</p>

様式3

全教科の指導方法課題分析と具体的な授業改善策

教科名 (理 科)

	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	補充的・発展的な学習指導計画
第一学年	<p>○落ち着いて静かな状態で学習することが出来る。</p> <p>○男子の中には極めて能力の低い生徒がいるが、授業の妨げになるような生徒はいない。指導方法は生徒の発言の中に良い点を見いだし、褒めて自己有用感を持たせることを意識して授業を進める必要がある。</p> <p>○生徒同士の知恵を出し工夫することで問題を解決するような授業展開をする必要がある。</p> <p>○提出物を期日までにしっかり出すことが出来ない生徒がいるので、提出物の管理が出来るような工夫、成績の状態が分かるような工夫をすることが求められる。</p>	<p>○生徒が引き込まれそうな魅力ある授業展開を行うことで、集中した授業を作る。その為に、考えたくないような課題の提示を行い、予想、討論、実験の繰り返しの中から、仮説を立て、真実に到達する一連流れを持つ仮説実験授業を行う。</p> <p>○一般的な教科書の授業では、お互いの意見の交換を少人数間で行うことで、対話的な授業展開を行う。</p> <p>○提出物の管理表を渡し、自分で提出物を管理出来るようにする。</p>	<p>○家庭学習用に入試問題集を印刷し、そこから定期テストに出すことで問題演習が出来るようにする。</p> <p>○定期テスト前の土曜日に年4回の補充教室を行う。</p> <p>○K中ベーシックで週6回×2時間の補充的な指導を行う。</p> <p>○K中ゼミを11月から週6日間で年間400時間3年生対象に行われているので、この時間帯に1年生は基礎基本の学習が同時にできる。これに参加するように参加を促す。</p>
第二学年	<p>○学習が嫌いな生徒が多いが、仮説実験授業「燃焼」で主体的に討論することで対話的作業を加え真理を探究しようとする気持ちが芽生え始めた。しかし多くの男子生徒は学ぶ意義を感じることが出来ない。</p> <p>○週1回の探究実験授業で自分達が興味を持てる課題に対し計画的に実験を進めていく習慣を身に付けさせる事で、理科好きの生徒を増やす努力を継続するが、10名近くの生徒が学習には不応である。</p> <p>○計画的に入試を視野に入れ家庭学習用の問題集を配布し、K中Bで説明出来る体制を取っているが本学年は努力することを嫌う傾向にある男子生徒が多い。</p>	<p>○アクティブラーニングの実践として仮説実験授業を行い、主体的、対話的で深い学びを実践する。</p> <p>○探究実験は、新しい学習指導要領の目玉であり生徒も満足している。文化発表会や校内作品展で研究成果を発表することで主体的に対話的に取り組ませていく。</p> <p>○授業規律をしっかり守らせ、緊張感のある指導を心掛ける。</p> <p>○より深く学びたいもののために、放課後の補習体制は毎日2時間確保していくようにする。</p>	<p>○定期テスト前の土曜日に年4回の補充教室を行う。</p> <p>○K中ベーシックで週6回×2時間の補充的な指導を行う。</p> <p>○K中ゼミを11月から週6日間で200単位時間以上の補充発展の入試対策問題演習の補習授業を行い、年間400時間の補習を行っている。</p> <p>○夏休み中、冬休み中の講習会を実施する。</p>
第三学年	<p>○週1時間の探究実験で様々な現象に触れ、実験を通し自ら探究する力を身に付けさせている。主体的な学習に慣れていない生徒も2年目になり積極的に取り組んでいる。</p> <p>○入試問題集を再編集した家庭学習は負担が多いと保護者からの意見もあり、量を少なくした。</p>	<p>○探究実験は新しい学習指導要領の目玉であり生徒も満足している。文化発表会や校内作品展で、研究成果を発表することで主体的に対話的に取り組ませていく。</p> <p>○2月に校内作品展で発表することは、1年間の学習成果をまとめる事になり、深い学びを実現させる。</p> <p>○自作問題集からテストを行い、成績に反映させることで学習意欲を培わせていく。</p>	<p>○定期テスト前の土曜日に年4回の補充教室を行う。</p> <p>○K中ベーシックで週6回×2時間の補充的な指導を行う。</p> <p>○K中ゼミを11月から週6日間で200単位時間以上の補充発展の入試対策問題演習の補習授業を行い、年間400時間の補習を行っている。</p> <p>○夏休み中、冬休み中の講習会を実施する。</p>

様式3 全教科の指導方法課題分析と具体的な授業改善策
 教科名 (音楽)

	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	補充的・発展的な学習指導計画
第一学年	<p>○歌唱の能力はあり、意欲的に取り組んでいる。</p> <p>○ワークシートや鑑賞では、文章で音楽的表現を伝えることができる。</p> <p>○器楽では、運指の理解や習得において個々に差がある。</p> <p>○グループ活動等を通して、より良い音楽表現や工夫を生徒自らが行えるようになると、さらに学力の伸長が図れると考える。</p>	<p>○歌唱練習でリーダーになれる生徒を育て、習得が難しい生徒への支援や声掛けを行えるような指導を行う。</p> <p>○器楽で習得の難しい生徒に対しては個別指導や助言を行う。</p> <p>○グループ活動の発表の場を多くして、グループ相互の学び合いの体験を増やす。</p>	<p>○昼休み、放課後を使って個人指導を行う。</p> <p>○器楽では運指表を工夫したり手本を示したりして、生徒が理解しやすい工夫をする。</p> <p>○長期休暇の課題で、鑑賞のレポートを作成し、音楽の良さを他者に伝えるための機会を行う。</p>
第二学年	<p>○歌唱の能力は前年度に比べて高まっている。概ね意欲的に取り組んでいるが、意欲において個人差が激しく、集中が続かない生徒が数人見られる。</p> <p>○ワークシートや鑑賞は、文章で音楽表現を伝えることに課題がある。</p> <p>○器楽では運指の理解や習得に大きく差がある。</p> <p>○楽譜が読めない、歌詞が読めない故に、学習に影響を及ぼしている生徒がいる。</p>	<p>○歌唱練習でリーダーになれる生徒を育て、習得が難しい生徒への支援や声掛けを行えるような指導を行う。</p> <p>○器楽で習得の難しい生徒に対しては個別指導や助言を行う。</p> <p>○能力や意欲が高い生徒は発展的な課題を与え、課題のある生徒は基本的なことから定着させていく。</p>	<p>○昼休み、放課後を使って個人指導を行う。</p> <p>○器楽では運指表を工夫したり手本を示したりして、生徒が理解しやすい工夫をする。</p> <p>○長期休暇の課題で、鑑賞のレポートを作成し、音楽の良さを他者に伝えるための機会を行う。</p> <p>○楽譜を見やすく理解しやすくする、歌詞にルビを振る等の教材の工夫を行う。</p>
第三学年	<p>○授業は基本的には集中出来ているが、受け身なところがあり、生徒同士でもっと意欲的に活動できればよい。</p> <p>○ワークシートや鑑賞での音楽的表現の能力は高い。</p> <p>○ワークシートでの振り返りの内容が歌唱や活動の表現の工夫に反映できることが望まれる。この部分では特にパートの能力差がある。</p>	<p>○歌唱練習でリーダーになれる生徒をのばし、消極的な生徒を引っ張れるような指導を行う。</p> <p>○合唱を多く取り入れ、合唱意欲を高めるとともに、発声の恥ずかしさに対して払拭を図り、パート間の格差の緩和を図る。</p> <p>○生徒同士で意見を述べることを重点におき、主体的に学習に取り組ませる。</p>	<p>○昼休み、放課後を使って個人指導を行う。</p> <p>○歌唱は手本を見せ生徒と一緒に歌う。</p> <p>○ワークシートの発表や、合唱でパート間での意見交換を行う機会を増やし、より良い合唱を作り上げるための意識やパートの役割をもたせる。</p>

様式3

全教科の指導方法課題分析と具体的な授業改善策

教科名 (美術)

	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	補充的・発展的な学習指導計画
第一学年	<ul style="list-style-type: none"> ○全体的に集中して制作に取り組んでいる。 ○発想・構想の点で、ポイントがおさえられていない生徒がいる。 ○ポスターカラーの平面的な彩色の仕方等、技能の点で、基本的技能を指導しても同じ間違いを繰り返す生徒がいる（筆の使い分け、筆運び、混色の仕方等）。 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業の導入部分で、ポイントを簡潔に説明する。 ○板書やプリントを工夫し、ポイントをいつも確認できるようにする。 ○基本的な技能を身に付けられるよう、適切な時間を設定する。 ○個々の状況に合わせて個人指導をきめ細かく行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○参考作品を日常的に見せる。 ○作品の制作等が遅れている生徒は、昼休み等を使って指導する。
第二学年	<ul style="list-style-type: none"> ○全体的に集中して制作に取り組んでいる。 ○用具の使用法等、技能の点で、基本的技能を指導しても同じ間違いを繰り返す生徒がいる。 ○発想・技能面において、個人差が激しい。 ○全体的に、丁寧にやっているのですが予定より時間がかかっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○個々の状況に合わせて個人指導をきめ細かく行う。 ○用具は正しく使わないとけがに繋がるため、強く注意を喚起する。 ○生徒の発想の幅を広げ各制作で有効活用できるよう、美術室の教材を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○参考作品を日常的に見せる。 ○作品の制作等が遅れている生徒は、昼休み等を使って指導する。 ○残された課題を、予定より短い時間でできるように内容を工夫して調整する。
第三学年	<ul style="list-style-type: none"> ○全体的に集中して制作に取り組んでいる。 ○発想・技能面において、個人差が激しい。 ○アイデアがあっても自分の描写力がついていかず、作品に生かしきれない生徒もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○個々の状況に合わせて個人指導をきめ細かく行う。 ○用具は正しく使わないとけがに繋がるため、強く注意を喚起する。 ○絵が描けなくても、最初は言葉から考えさせる等、発想を展開しやすくする。 ○自分にできる表現方法から発展させ、作品完成まで取り組めるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○参考作品を日常的に見せる。 ○作品制作等が遅れている生徒は、昼休み等を使って指導する。 ○生徒が作りたい作品をイメージできるように多くの参考作品を取り入れる。

様式3

全教科の指導方法課題分析と具体的な授業改善策

教科名 (保健体育)

	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	補充的・発展的な学習指導計画
第一学年	○自分自身の技能を把握できている生徒もいるが、全員が課題をもって取り組んでいるわけではない。自分自身の技能を把握させ、相互にアドバイスをさせる場を設ける必要がある。	○生徒の意欲に合わせ、課題を設定し、こまめにアドバイスしていく。また、意欲的な生徒と一緒に学習できるように、ペアでの学習設定を多く取り入れていく。	○学習カードを活用し、自己の体力・技能等を把握させ、目標をもたせる。 ○グループ内で生徒同士の教え合いができるように、リーダー的な存在の生徒にもアドバイスするように促していく。
第二学年	○苦手意識を持った生徒や支援の必要な生徒がいるので、運動の楽しさを体感させるために、個々の技能に応じた指導や、段階的な指導をおこなっていく必要がある。 ○めりはりをつけられない生徒もいるので、より安全面に配慮することが必要である。	○授業の導入や単元の導入で興味関心の高まる体育理論を取り入れ、集中して話を聞く姿勢を作る。 ○実技の授業の中では、安全についての配慮などの話は、実際の場面で繰り返し指導していく。	○学習カードを活用し、自己の体力・技能等を把握させ、目標をもたせる。注意事項が聞けない生徒には個別に指導をする。○積極的に運動活動に取り組める生徒に対しては新しい課題を提示し、さらに上を目指して、意欲的に学習できるように指導していく。
第三学年	○自分の課題を把握できていない生徒がいる。自分に合った課題を見つけ、改善していくことができるような授業を展開していく必要がある。	○具体的にやって見せて、生徒の意欲・集中力を高めていく。また、注意点をお互いに確認できるようにペアやグループ学習を設定する。 ○単元の途中で目標の見直しが必要な時は、その場に応じた指導を適切にしていく。	○学習カードを活用し、自己の体力・技能等を把握させ、目標をもたせる。目標や課題が分からなくなってしまう生徒には、個別支援をしていく。 ○グループ内で生徒同士の教え合いができるように、リーダー的な存在の生徒にもアドバイスするように促していく。 ○保健の授業において、自然災害について深く学ぶ。また、心肺蘇生法については実習を行う。

様式3

全教科の指導方法課題分析と具体的な授業改善策

教科名 (技術・家庭 (技術領域))

	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	補充的・発展的な学習指導計画
第一学年	<p>○全体的に前向きに取り組むが生物育成・木材加工による実習で、技能などに大きな個人差を生じている。また、36名が一斉に実習に取り組むので木工室の手狭さを感じる。</p> <p>○家庭科が専任ではないので、授業を連続してできない面があるため、実習が思うように進まない。</p>	<p>○昨年の作品の写真をICT教材として活用し、実物を見せ、意欲をもたせる。</p> <p>○木材加工では個別の対応に力を入れ、技能差に対応できるように生徒の把握と見本や一部加工の補助を行う。</p> <p>○金工室の有効活用を考える。</p> <p>○毎時間の課題を着実に取り組ませる。</p>	<p>【補充学習】</p> <p>○分からないところやうまくいかないところは、個別にやって見せ、考えさせ、やらせてみる時間を設定する。</p> <p>○放課後の時間を利用し個人的に対応する。</p> <p>【発展学習】</p> <p>○設計や作業のしかたを工夫し、考える時間を設定する。</p> <p>○放課後の時間を利用し個人的に対応する。</p>
第二学年	<p>○男子の中に軽度発達障害の生徒が多く、集中して座学・実習に取り組むことができず、作品の完成度も低く、雑な面が非常に多い。また、創作しようとしにくい。</p> <p>○家庭科が専任ではないので、授業を連続してできない面があるため、実習が思うように進まない。</p>	<p>○昨年の作品の写真をICT教材として活用し、実物を見せ、意欲をもたせ、授業への関心意欲を高めていく。</p> <p>○グループでの話し合いなど、環境を変えた課題解決に取り組ませる授業を行う。</p> <p>○毎時間の課題を着実に取り組ませる。</p>	<p>【補充学習】</p> <p>○うまくいかないところは、個別にやって見せ、考えさせ、やらせてみる時間を設定する。</p> <p>○放課後の時間を利用し個人的に対応する。</p> <p>【発展学習】</p> <p>○設計や作業のしかたを工夫し、考える時間を設定する。</p> <p>○放課後の時間を利用し個人的に対応する。</p>
第三学年	<p>○エネルギー変換の「電気」に関して苦手意識が強い生徒が多いが、まじめに授業に参加している。</p> <p>○作品作りへの興味・関心も高く集中して作品作りに取り組む姿勢が見られた。</p>	<p>○意欲的に学習に取り組んでいるのでICT教材の準備、実技教材の準備をし、ていねいな授業の計画をし、授業への関心意欲を低下させないようにしていく。</p>	<p>【補充学習】</p> <p>○分からないところは、個別にやって見せ、考えさせ、やらせてみる時間を設定する。</p> <p>○放課後の時間を利用し個人的に対応する。</p> <p>【発展学習】</p> <p>○仕組みを応用し、発展したものを考え、設計する時間を設定する。</p>

様式3

全教科の指導方法課題分析と具体的な授業改善策

教科名 (技術・家庭 (家庭領域))

	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	補充的・発展的な学習指導計画
第一学年	<p>○実技に重点を置いているため、理論的な裏付けをすることが不十分である。</p> <p>○授業で行った学習内容が日常生活の中でどれだけ改善されたのか把握しにくい。</p> <p>○作業全体を見通しての実施経験が少ないため、自分の作業へ自主的に取り組めず、出来ていないことに気付かなかつたり、自信なく全ての指示を求めたりする生徒がいる。</p>	<p>○継続した理論の裏付けが出来るよう、実技とのバランス配分を改善していく。</p> <p>○年間を通じて実践レポートの提出を呼びかけ、生活の改善の行方を把握していく。</p> <p>○主体的に学習を進められるよう、授業の最初にその時間の課題を師範等で徹底する。</p> <p>○各作業段階の見本等を多く用意し、主体的にやる気を引き出すとともに細やかな段階毎にチェックや評価をし、励みとなるようにする。</p>	<p>○生活を見直し、改善していかうという課題を段階を追ってレベルアップさせながら年間を通して与えていく。</p> <p>○ホームプロジェクトなどを行い、課題発見→改善計画→実践といった課題を与えていく。</p> <p>○作業の進度に個人差があるので、やる気をなくさせないよう、時間毎の課題修了者には別のものを用意し、遅れた場合には補習を行い全員が毎時間新たな気持ちで取り組めるようにする。</p>
第二学年			
第三学年	<p>○保育領域の具体的な教材資料の種類が少ない。</p> <p>○将来自分の子供や社会の一員として子供の養育にあたる立場の生徒に現在までの自分を振り返り幼児期の大切さを実感させたいが、大きな視野で考えることが難しい。</p>	<p>○VTR,DVD、模型などを活用し身近で、より具体的な教材の整備を行う。</p> <p>○実生活で幼児と触れ合うことが少なく関心も少ないため視聴覚教材や模型などを多く利用し、胎児から段階をおって振り返り学習を進める。</p>	<p>○新聞テレビなどの報道の中から今現在、子供を取り巻く環境の問題点を取り上げ考えたりレポートにまとめたりすることにより社会人としての自覚をもたせる。</p>

様式3

全教科の指導方法課題分析と具体的な授業改善策

教科名 (英 語)

	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	補充的・発展的な学習指導計画
第一学年	<p>○英語の文字と音声が結びつかず、音読を苦手とする生徒がいる。</p> <p>○日ごろの人間関係が影響して、ゲームやグループワークを意欲的に取り組めない場面があった。</p>	<p>○授業内でフォニックスを適宜確認していく。音読の時間を多く取り入れる。</p> <p>○少人数クラスの人数および習熟度が均等になるように分け、また人間関係もお互いに教え合いながら理解を深めていけるようにする。</p>	<p>○理解度に差が出る場合や、発展的な表現方法を学習する際には、少しずつヒントを与えながら協同学習を進める。</p> <p>○ALT とコミュニケーションをとる機会を設けることで、生徒の伝えたいという意欲を向上させる。</p>
第二学年	<p>○協同学習を取り入れたが、意欲的に学習に取り組む生徒よりも、基礎的な学内容が定着していない生徒が多くおり、授業の進度に影響があることや理解度の差が開くことがある。</p>	<p>○習熟度を意識した1学級2クラス展開の少人数授業を行う。コミュニケーションの機会を多く取るクラスと、基礎的な内容の反復練習に時間をかけるクラスに分けて、どの生徒も満足できる授業にする。</p>	<p>○既習内容を授業の中で繰り返し扱うことを重視する。</p> <p>○読む・聞く活動の後に書く・話す活動を行うことで、学習内容の定着を図る。特に支援の必要な生徒に関しては、学習支援講師によるサポートを行うことで、学習に遅れが出ないよう配慮する。</p>
第三学年	<p>○意欲的に学習に取り組むが、英語が苦手な生徒が多く、なかなか結果に結びつかない。家庭学習もなかなか定着しない。</p> <p>○単語や文法事項、長文の学習には興味・関心を持って取り組むが、発表やコミュニケーションの学習では少し消極的である。</p>	<p>○習熟度を意識した少人数授業を行うことで、発言しやすい・質問しやすい雰囲気を作る。ペア活動やグループ活動を多く取り入れ、教え合いの中で理解を深める。</p> <p>○ワークシートや小テスト、口頭で繰り返し復習することで、少しずつ知識の定着を図る。</p>	<p>○理解度に差が出る場合や、発展的な表現方法を学習する際には、少しずつヒントを与えながら協同学習を進める。</p> <p>○ALT とコミュニケーションをとる機会を設けることで、生徒の伝えたいという意欲を向上させる。</p>